

西東京市 図書館だより

平成29年(2017年) 3月 15日

第65号

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行：西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



「光りの木」
住吉小学校 四年

平成28年度を振り返って

4月、子ども読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受け、西東京市図書館の活動が認められるという嬉しい出来事からスタートしました。「西東京市子ども読書活動推進計画」は第3期をむかえ、今年度は取り組みのひとつとしてYAコーナーをリニューアルし、中高生世代のおすすめ本にポツプを付け展示をするなど、本に興味のない子どもにも読書への入り口をつくる工夫を進めています。

また「障害者差別解消法」が施行されたことをうけ、関連するテーマで講演会を開催しました。図書館ではこれまでも図書館利用が困難な方へのサービスを行ってまいりましたが、盲導犬と暮らす人、デイスレクシア（読み書き障害）を持つ人など、その対象となる方の背景は多種多様となっています。これからも利用者の方々の声を大切にしながら、サービスのあり方を考え続けていきます。

西東京市では健康でいきいきと暮らすことのできる健康応援都市のまちづくりを進めています。これに関連して、中央図書館に新たに『健康・医療情報コーナー』を設置し、家族の介護に関する講演会を実施しました。

そのほか7月に創刊した本の情報紙『ちらっと』では毎号違うテーマで本を紹介し、図書館で実施しているサービスマもあわせて皆さまにお届けしています。「心に残るおすすめの一冊」「武蔵野大学生のおすすめの本」など、利用者参加型の展示も始めています。

来年度も「知りたい・学びたいに応える」という図書館の基本を大切にしながら、新しいことも取り入れていけるよう、職員一同研鑽を重ねてまいります。皆さんとともに成長する図書館であり、利用される皆さんにとって長くお使いいただける居場所になればと考えています。

★声の広報をお届けしています。

お知らせの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館 ☎421-4545へお問い合わせを

西東京市教育委員会主催 西東京市子ども読書活動推進計画策定記念行事

「子どもの本まつり」 子どもと本をつなぐために を開催しました!

1月28日(土)、保谷こもれびホールにて開催した「子どもの本まつり」。この行事は、平成28年3月に策定した「第3期西東京市子ども読書活動推進計画」(以下「計画」)を広く市民のみなさんに知っていただくことを目的とし、実施にあたっては、策定に携わった市民で組織した実行委員会ほか、ボランティアの方々の協力を得ました。子ども連れでも参加しやすいよう、午前は子ども、午後は大人と、対象別に複数の催しを行いました。来場してくださいましたみなさまに感謝するとともに、ご協力いただいたボランティアの方々へもお礼を申し上げたいと思います。

①「記念講演会」

翻訳家の福本友美子氏をお招きして、「翻訳絵本の魅力を語る」というテーマでご講演いただきました。ご自身の訳された本の中から何冊か読み聞かせをしてくださり、子育て中の保護者に向けて貴重なアドバイ

スもいただきました。約90名の参加がありました。



福本友美子氏

②「読書会」

課題本を事前に読んできた小学生・中学生による読書会。小学生の部では4名が参加しました。「かさねちゃんにきいてみな」(有沢佳映・著 講談社)について、個性豊かな登場人物たちへの尊敬やツッコミ、共感など、感想が次々に上がりました。中学生の部では6名が参加しました。「園芸少年」(魚住直子・著 講談社)について、表現の面白い箇所や、登場人物の性格や行動力、心



の変化に注目した感想、また、自分だったら…等の感想が上がりました。本を一人で読む楽しさに加え、他の人と面白さを共有する楽しさを発見する時間となりました。

③「おはなしひろば」(幼児く対象)

2時間の間に、絵本12冊(大型絵本4冊)、紙芝居2点、合間にわらべうた遊びも入ったスペシャルおはなしひろば。

約60名の参加者は、大型絵本の迫力ある絵に驚き、日本の昔話の紙芝居や絵本で笑い、楽しい時間を過ごしていました。

応募してくれた小学生3名の絵本の読み聞かせは、事前練習・当日練習を経ての本番でしたが、その上達ぶりには目を見張るものがありました。参加した子どもたちも、お兄さん、お姉さんの堂々とした読み聞かせに聞き入っていました。

④「ちいさなおはなしひろば」

(乳児対象)

最初は、お母さんのお膝の上でわらべうた遊び。でも、絵本の読み聞かせが始まると、立ち上がった絵本に近づいてきました。ペンギン



が体操する絵本が始まると、みんながマネして、ペンギンに。最後は大きな絵本の読み聞かせをしました。子どもたちは、自分より絵本が大きいことにちよつとびっくり!

⑤「工作・折り紙」

工作では、紙コップと輪ゴムを使った「ロケットはっしゃ」を作りました。子どもたちは、何度も楽しんで、輪ゴムでロケットを飛ばしていました。

折り紙では、「花のこま」を作りました。こちらは折り紙で3つの部品を作り、最後にこまになるよう、合体させます。いろいろな色の組み合わせでカラフルなこまが出来上がり、一緒に作った子どもたち同士で色の競演を楽しんでいました。

⑥「パネル展」

『目で見る西東京市子ども読書活動推進計画』は、小ホールのロビーで行われました。「計画」の説明のあとに、まず、行政の取り組みとして、学校、保育園、児童館、図書館が作成したパネル、続いて、子どもが作成したパネル、続いて、子どもが行っている14の市民団体作成の紹介パネルが並びました。各団体、趣向をこらした力作揃いのパネルは、来場者の目をひいていました。



「子どもの本まつり」イメージイラスト

「新コーナー」が誕生しました!

中央図書館に
「健康・医療情報コーナー」が
誕生しました!

「健康・医療」 情報コーナー



医療は日々めまぐるしく進歩していますが、我々のQOL(クオリティ オブ ライフ)はどうでしょうか。からだのことや病気のことなど、気になったときにはまずこの書架をのぞいてみてください。

中央図書館に、新たに「健康・医療情報コーナー」を設置しました。わかりやすく説明された家庭用の医学事典から病院でもらった薬がわかる本、各疾病・病院案内や少し専門的な本まで、ひとつの棚にからだや病気に関する資料をぎゅつと集めて置いてあります。また、一定期間テーマによって書籍を入れ替える展示も常設しており、3月31日までは『認知症と介護』についての資料を全館から取り揃えて展示しています。4月からはメンタルヘルスについての展示を行います。他にも、医療機関等のリーフレットもご覧いただけますので、ぜひこの機会にお手にとってみてください。

リニューアルしました!
「YA(ヤングアダルト)
コーナー」

YA世代の中でも、高校生向けの資料の拡充を目指し、リニューアルをしました。児童書のカテゴリだけでなく、今年度は、一般書の購入を増やし資料の幅を広げました。

新たに新設したコーナーは、①「進路コーナー(進学・就職)②「洋書コーナー」③「10代のお悩みレスキュー」④「中高生の私の一押し」コーナー(恋愛・性、勉強法、身体と心の虐待など)」。また、④「中高生の私の一押しコーナー」では、リアルな現役YAの書いた書評とともに本を展示することで、その世代の「気になる」を引き出せたらと考えています。

①「進路」 コーナー



②「洋書」 コーナー



③「10代のお悩みレスキュー」 コーナー



④中高生の 「私の一押し」 コーナー



図書館 オリジナル スタンプ



個人の読書記録としても活用できます。スタンプコーナーは市内全館に設置しています。
スタンプを押してね!

平成27年度、開館40周年記念事業として実施した「スタンプラリー めざせ!図書館マstar★」では、3000人の子どもたちがゴールを目指して参加してくれました。この一年、貸出者数・貸出冊数も増え、図書館でスタンプを押すことも子どもたちが来館する楽しみの一つとなったようです。そこで今年度、スタンプを活用した新たな子ども向けサービスをスタートしました。それが「子どもスタンプコーナー」です。乳幼児から小学生まで、図書館に来た子は、「こども用スタンプシート」(以下「シート」)に、「図書館オリジナルスタンプ」を押すことができます。「シート」には、読んだ本の記録と評価のスペースがあり、「シート」を保管することで、

人気です♪
「子どもスタンプコーナー」

市内に居住して二十五年近い年月が経った。子育て中は自分の自由な時間が少なく、図書館は私の視野にはなかった。図書館だよりも読むことも無い日々だった。

子どもが小学校高学年になった頃、近くの谷戸公民館の講座が目に入り、子どもが帰宅する前の時間をいくつかの講座を申し込んで、ママ友以外の人々との交流を持った。その時の講座に建築

史があった。寺社仏閣の古建築を学び、その後、その仲間と先生で自主講座へと進み、やがて外に出て毎週1回、机上だけの勉強ではなく、実際に実物を観察する古建築を巡ることになった。この頃から図書館に通う日々となった。

建築史関連の書籍に始まり、日本の歴史、中国の歴史、朝鮮半島の歴史へと建築から歴史へと興味は広がった。図書館にはそれを十分満たしてくれる本があった。さらに専門的な本を見なければ、他地域や都立図書館から取り寄せてもらえる。最近はおつばら他館からの取り寄せを利用している。大変便利である。

国会図書館も月に数回出かけて行くが、国会図書館には本は並べられていない。本はすべて収蔵庫に保管されていて、パソコン操作で希望する本を申し込んで、収蔵庫からベル

トコンペアーでカウンターに本が到着するシステムだ。漢字一つ間違えてもヒットしてこないで、永田町まで出かけても希望する書籍に在りつけないこともある。その点、地元

の図書館では、字が間違っても関連する書籍を丁寧に拾ってくれる。また、国会図書館

ではすべての書籍が揃っていることが取り柄だが、膨大な書籍の収蔵を考えると、2000年以前に発行されたものなどがすでに電子書籍になつてしまつていて本として読むのではなく、パソコン上で読む

むことになる。本を手にするこに愛着を感じる年代にはさびしい知識との対面になる。いずれ、地元図書館も電子書籍に替わる日々も、そう遠くはないのかも



利用者エッセイ

わたしと図書館
木村美和子

文化講演会

「介護で孤立しないために」ルポライターの取材からこれからの介護を考える」

2月4日(土)、田無公民館にて「介護で孤立しないために」ルポライターの取材からこれからの介護を考える」と題して、ルポライターの山村基毅さん(やまむらもとぎ)を講師にお迎えして図書館文化講演会を行いました。

山村基毅さんはルポライターとして様々な著作を出版されており、『ルポ介護独身』、『認知症と共に生きる』など介護に関する著作も上梓されています。

今回の講演会では、その時の取材で得たエピソードやご自身の介護経験を中心に、介護をする側の現状や苦悩などをお話いただきました。どう生きるかという話は誰もがよく考えるけれど、どのように死ぬかについて考える人は少ない。それを考えて介護をすることが大切だというお話が印象に残りました。

超高齢社会を迎える日本では介護は誰もが通る道となり、介護をするにも自分一人ではなく、地域の助けや人とのつながりが大切で、「家族会」や「介護カフェ」など介護者同士が話をする場所があることなどもお話いただきました。

また、質疑応答では、西東京市の地域包括支援センターや、認知症家族の会の方から介護者への支援につ

いてご紹介をいただき、介護で孤立しないための取組みが西東京市でもなされていることが分かり、参加者の皆さんも熱心にお話を聞いていました。



平成27年度
図書館事業評価の概要

図書館協議会による評価の主なものは、次のとおりです。

- 健康医療情報の充実、「食」に関する情報の充実に期待する。
- オンラインデータベースの利用の拡大を図るためPRを進めてほしい。
- YANONフィクションの充実を図り成人サービス担当者との共同選書を進めてほしい。
- おはなし会参加者の低年齢化の要因を検証し、取り組みに期待する。
- 新聞折込み広告の電子化はユニークな取り組みなので継続を希望する。
- 関係機関と協力し多文化サービスの実現を期待する。